

今後の検討方向について（加藤私案）

1. 本会議の盛り上がりを引き継ぎ、より恒久的なIGF組織を構築する。
2. IGFの基本方針を継承し、誰もが自由に参加し、発言し、活動は公開するという精神を維持する。
3. これまで活動してきた「日本IGFタスクフォース」、「IGCJ」、「Japan IGF」、「IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム」、「IGF-Japan」が、それぞれの特徴を共有し、それらを生かし統合する形で、一つの組織に集結する。
4. これまで任意団体であることから発生した制約を取り除き、独自の名で会議を開催し、寄付を受けられる等のメリットを得るため、一般社団法人として法人化を目指す。このため法人組織維持のための最低限の仕組みを保持する。
5. 法人となっても、できる限りボランティア精神で運営し、費用は最小限で活動することを心がける。但し、企業や政府からの寄付は歓迎し、非営利で公益的な活動費として使用する。
6. 活動は、狭義のIGF関連活動に限らず、インターネット・ガバナンス（IG）に関する活動も含めることとする。
7. IGFに対して、日本のNRIとして登録し、内外の関係者、関係機関と連携して活動する。
8. 活動は、全員参加の「本会議」（月例？）、と案件やイベント企画に応じた委員会や部会、それらの事務的支援を行う事務局から成るものとする。

【全体に対して：挿入提案文言でなくコメントです】

全体として反対する点がなくよく書かれていると思います。サポートします。しかし、それは今まで活発化チーム内で出ていた内容を大きくはみ出していないからのようにも思います。つまり、踏襲するだけではなく、いい意味で逸脱するタネを見せるべきだという感じがします。たとえば、日本IGFタスクフォースが我々が昨年までできなかったことを実現してくれそうなグループなのだとしたら、そこに対して「各ステークホルダーから2つ以上新しい法人に参加する会員組織を集めるまで消えちゃダメ」というやんちゃな要請文書を出すとか。

注釈の一覧 : 今後の検討方向について (加藤私案)

ページ: 1

- 番号: 1 作成者: Hiro Hotta 日付: 2023/11/07 10:57:00
たとえば、「マルチステークホルダーをまんべんなく集める」というのが盛り上がりを測る一つの軸だとすると、これは合格点だったのでしょうか？
- 番号: 2 作成者: Hiro Hotta 日付: 2023/11/07 10:49:00
盛り上がりを測る軸(評価観点)には複数あると思いますが、どういう軸で盛り上がったのか、どういう軸は盛り上がらなかったのか、それを例えばレーダーチャートにして、本当に期待した方向に盛り上がったのかを分析すれば、京都會議の何を引き継ぐべき盛り上がりなのか判ると思います。
- 番号: 3 作成者: Rafik Dammak 日付: 2023/11/03 2:49:00
I support the general ideas and objectives here:
- consolidating existing and previous efforts. they were made or initiated for different reasons but that might led to confusion and spreading our attention
- I agree with having a structure or vehicle to support such effort and not only focusing on IGF but the broader IG matter. I don't have any opinion about incorporated structure but I do see the merits to have something more sustainable
- in term of activities, other than meetings and building awareness, anything related to build position e.g. publishing position papers or support research would be helpful
- 番号: 4 作成者: Yuri TAKAMATSU 日付: 2023/11/06 11:30:00
今まで携わっている方たちが、ボランティアな活動に限界を感じ続けている中、より広く人を巻き込む方法や活動資金の集めの方針なし、活動範囲の拡大が支持されているように見えました。

巻き込む人を増やす方法や、会員の集め方の案を検討する役割は誰/どういった仕組みで検討されるのでしょうか？(過去、議論が思うように進まないのは、そういった議論に参加したいという人がそもそも少なかったり、案を検討したりする負荷が非常に大きいからだという印象があります)
- 番号: 5 作成者: Yuri TAKAMATSU 日付: 2023/11/06 10:21:00
それぞれの特徴は、外部観測できない部分もあると思うため、各団体/組織から出していただくのが良いと考えます。(一部の人の想像ではなく、各団体や集まりが、自分たちの特徴を振り返り、各自出していただくことで、より正しい特徴を掴めると考えました。)
- 番号: 6 作成者: Hiro Hotta 日付: 2023/11/07 11:09:00
日本でのIG活動は運用を担ってきたtech community業界にいる個人が中心となり引っ張ろうとしてきた(引っ張れると思ってきた)ことが特徴であり不調の原因であったという分析が3年前にも共有されました。
京都をチャンスとして参加コミュニティを広げることが日本IGFタスクフォースに期待されていたと思うのですが、これは成功したのでしょうか？ 成功していないとしたら日本IGFタスクフォースにできなかったことを誰がどうやったら解けるかのブレークスルーが必要だと思います。つまり既存組織を集結しても解決の糸口につながらないのではと思ってしまいます。
- 番号: 7 作成者: Hiro Hotta 日付: 2023/11/07 11:12:00
法人化賛成です。法人化するに際し、サポートする企業や組織を全ステークホルダーコミュニティから少なくとも1組織(できれば2組織)集めてから法人化する必要があると思います。
- 番号: 8 作成者: Yuri TAKAMATSU 日付: 2023/11/06 11:22:00
8.が前提ならば、この7部分の実現方法はもう少し実現可能な方策を立てた上で、書いた方が良いと思います。(今までと同じやり方ならば、今まで同様、難しいと思います)

IGF2023を乗り切るために、IGF2023においては、活発化チームの中で議論を行い、一旦NRI関連の会合に3名参加いただく形にしたと思いますが、その状態を2023年以降も継続するかは議論していないという認識です。

事務局の担当範囲が、イベント対応や定例開催が主なのだとすれば、それとは別に、新しい一般社団法人では、Japan IGFとして人や意見を外に出せるような仕組みを回す事務局が必要だと思います。(それをボランティアにすると、今まで同様、Japan IGFとして人を出せない状態が継続するのでは、と思いました)
- 番号: 9 作成者: Rafik Dammak 日付: 2023/11/03 2:49:00
I support the general ideas and objectives here:
- consolidating existing and previous efforts. they were made or initiated for different reasons but that might led to confusion and spreading our attention
- I agree with having a structure or vehicle to support such effort and not only focusing on IGF but the broader IG matter. I don't have any opinion about incorporated structure but I do see the merits to have something more sustainable
- in term of activities, other than meetings and building awareness, anything related to build position e.g. publishing position papers or support research would be helpful

今後の検討方向について（加藤私案）

1. 本部会議の盛り上がりを引き継ぎ、より恒久的なIGF組織を構築する。
2. IGFの基本方針を継承し、誰もが自由に参加し、発言し、活動は公開するという精神を維持する。
3. これまで活動してきた「日本IGFタスクフォース」、「IGCJ」、「Japan IGF」、「IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム」、「IGF-Japan」が、それぞれの特徴を共有し、それらを生かし統合する形で、一つの組織に集結する。
4. これまで任意団体であることから発生した制約を取り除き、独自の名で会議を開催し、寄付を受けられる等のメリットを得るため、一般社団法人として法人化を目指す。このため法人組織維持のための最低限の仕組みを保持する。
5. 法人となっても、できる限りボランティア精神で運営し、費用は最小限で活動することを心がける。但し、企業や政府からの寄付は歓迎し、非営利で公益的な活動費として使用する。
6. 活動は、狭義のIGF関連活動に限らず、インターネット・ガバナンス（IG）に関する活動も含めることとする。
7. IGFに対して、日本のNRIとして登録し、内外の関係者、関係機関と連携して活動する。
8. 活動は、全員参加の「本会議」（月例？）、と案件やイベント企画に応じた委員会や部会、それらの事務的支援を行う事務局から成るものとする。

【全体に対して：挿入提案文言でなくコメントです】

全体として反対する点がなくよく書かれていると思います。サポートします。しかし、それは今まで活発化チーム内で出ていた内容を大きくはみ出していないからのようにも思います。つまり、踏襲するだけではなく、いい意味で逸脱するタネを見せるべきだという感じがします。たとえば、日本IGFタスクフォース¹⁰が我々が昨年までできなかったことを実現してくれそうなグループなのだとしたら、そこに対して「各ステークホルダーから2つ以上新しい法人に参加する会員組織を集めるまで消えちゃダメ」というやんちゃな要請文書を出すとか。

番号 : 10 作成者 : Yuri TAKAMATSU 日付 : 2023/11/06 11:30:00

今まで携わっている方たちが、ボランティアな活動に限界を感じ続けている中、より広く人を巻き込む方法や活動資金の集めの方針なし、活動範囲の拡大が支持されているように見えました。

巻き込む人を増やす方法や、会員の集め方の案を検討する役割は誰/こういった仕組みで検討されるのでしょうか？（過去、議論が思うように進まないのは、そういった議論に参加したいという人がそもそも少なかったり、案を検討したりする負荷が非常に大きいからだという印象があります）